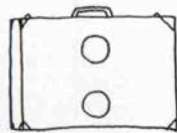


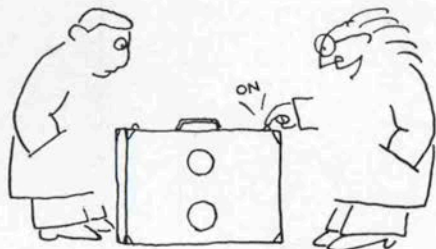


それは?



持ち運びに重い
盗まれやすい という
二大欠点を克服した
トランクなのじゃ

1



ます"

2



持ち主について
自分で歩く



すごい!

3



置いておくときは



4



他人が手を触れると
撃退する

5

こりゃ、業界がよろこんだでしょう



6

それがよろこばんのじゃ
新しい欠点を指摘しおった



7

メカがぎっしりで
ものがはいらんというのじゃ



8

神戸を福祉の街に



橋本 明

〔社団法人家庭看護
促進協会事務局長〕



オシフィエンチムをくり返すな!

元アウシュヴィッツ強制収容所の囚人ルシアン・モテカ氏の講演から

八月六日。東灘区の御影公会堂においてルシアン・モテカ氏の講演が行なわれた。テーマは「アウシュヴィッツと現代——惨過を超えて人類の希望と平和を」。モテカ氏は元アウシュビッツ強制収容所の囚人であったが、奇跡的に脱走に成功し、戦後はポーランド人民共和国大使や文化芸術大臣をつとめ、現在、国際アウシュヴィッツ委員会書記長、アウシュヴィッツ博物館保存委員会会長であり、生き残った元囚人、抵抗運動の闘士として世界に平和を訴えている。

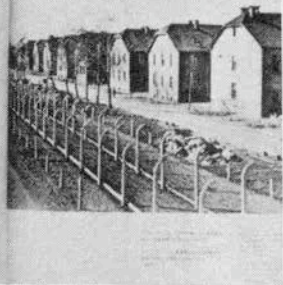
講演当日はちょうど広島に原爆が投下された日であり、モテカ氏は「私は今朝、すべての日本人と共に黙禱を捧げました。その時、死んだ多くの友人のことを思い出しました。オシフィエンチム（アウシュヴィッツのポーランド名）強制収容所では数百万人が殺害されましたが、生き残りの私たちは戦争を避けるために、収容所でどんなことが行なわれたかという体験を次の世代に伝えていく義務があります」と凄まじい体験を語りはじめた。

「私は一九四二年末、レジスタンス（反ナチス地下運動）の一員として活動していた時、ゲシュタポに逮捕され、死刑のために刑務所の独房に投獄された。拷問を受け続け、自殺をはかったがベルトが切れて命をとりとめ、そのあとオシフィエンチム強制収容所に送られた。囚人番号一三六六七八の入墨が左腕に入れられた。収容所にも囚人による地下組織が作られ、外国の反ファシズムと戦う人たちがいたが、スパイや密告者がいたのでお互いに偽名で呼びあった。ナチスは囚人を拷問や強制労働で人間の尊厳を失くしてしまおうとしていたが、私たちはさまざまな民族や階層を越えて連帯し合い、死んでいく時も尊厳を持って死んでいくようにした。収容所で生き残れる人は体力よりも精神的な力が大きかった。生きる希望を失なう人は体力があっても死を早めていた。戦争終結は近いぞ」というような情報を囚人の間に流して元気づけたりした。

一九四四年になると、ナチスはすべての囚人を

殺して収容所を破壊するという計画が伝わってきたため、この情報を世界に知らせなければならず私は地下組織から収容所脱走命令を受けた。」

モテカ氏は続いてこの収容所を脱走する様子を語った。多くの囚人が脱走を試みたが成功の可能性はほとんどなく、一人が脱走しようとする仲間が十人死刑となった。この収容所で身代りであるんだコルベ神父のことは日本でもよく知られている。モテカ氏もし脱走に失敗すれば自殺をするつもりで毒薬を持っていた。アウシュヴィッツからの脱走に成功した数少ない一人であるモテカ氏はレジスタンスに入り、国際抵抗組織と連帯し、



上/収容所から解放された時、人々は骨と皮だけになっていた。

左上/アウシュヴィッツ強制収容所の建物—数々の悲惨な大虐殺がその中で行われた。

左/収容所で殺された子どもたちの写真—罪のないたくさんの幼い生命が奪われた。



囚人を救出する任務に力を注ぐ。彼の妻まじい体験談は戦争のドキュメンタリー映画やサスペンス映画を見ているような気持ちにさせられる。

「今、生きのびている囚人は四万人。戦後45年経ち、私たちはもう去りゆく人間になっている。収容所を経験した者がいなくなってもその経験を何とか次の世代に伝えていけることを願っている。

私たちがなぜこんな辛い体験をいつまでも語りつがねばならないのか、とよく聞かれる。「辛いことは忘れよう」と最近ヨーロッパではよく言われるが、忘れ去られた歴史はまた歴史に登場してくるのです。侵略や他民族への圧迫がいつ歴史の表面に現われるかわからない。一つの民族が生きるために他の民族を滅ぼそうとした歴史の一つがオシフィエンチムであり、人間が人間に対してどんなことをなしているのかというシンボルがオシフィエンチムであります。人類史上「カソド」これ程多くの人たちが殺された場所は他にない。私たちが強制収容所の生き残りの経験者は戦争というものがどんなに悲惨なものかをよく知っているがゆえに、みなさんが私たちのような経験を決して二度と繰り返さないよう祈っています」

二時間を越える講演のあと参加者からは次々と質問が続いていた。

なおアウシュヴィッツ強制収容所の囚人の遺品などを展示した「心に刻むアウシュヴィッツ神戸展」が10月20日から神戸国際港湾博物館で開かれる。

問い合わせ先

〒六五二 神戸市兵庫区永沢町四一五八 妙法華院内

電話(〇七八)五七五—二六〇八

経済の発展とともに、日本も世界の中で重要な位置を占めるようになり、世界各地で活躍する日本人が増えている。神戸からブラジルに移民として渡伯され久しぶりに帰国された若林さんは、その中でも先駆的なお一人である。嵐の中、若林さんは、関西の代表的抽象画家津高和一さんの西宮の自宅を尋ねた。ブラジルとのつき合いの早かった画伯と、ギャラリーさんちか「若林和男展」を開催する神戸地下街の森本泰好さんの3人で、ブラジルのこと、日本のこと、もちろん美術のこと、などをざつとばらんにお話しいただいた。

■若林和男氏が津高邸を訪ねて

芸術は遊び 自分の楽しみだ!

津高和一 (画家)

若林和男 (画家 / ブラジル在住)

森本泰好 (神戸地下街棟専務)

★ドラマティックだったあの頃の移民

森本 若林さんは、三十年前によく思い切ってブラジルへの移民を決心されましたね。どんなことがきっかけでしたか。一度聞いてみたいと思っていたんですよ。

若林 両親の故郷が滋賀県の湖東で、近江商人の本場だったんです。

父も商人だったのでですが戦中の早い時期に病死し、母子家庭だった我が家は疎開し、滋賀と神戸を、行き来していたのですが、終戦の年の六月に、一級上の野坂昭如などと一緒に焼け出され、本格的な田舎生活が始まるわけです。そこでいわゆる疎開いじめに会い、人間のイヤな部分との出会いになったのですが、焼残った一部の家作を処分して、比較的早く、神戸へ帰れたことは、大変幸せだったと今も思っています。神戸でも友人の画家Yの就職をめぐって、日本の企業のエゴを知ったりで、当時の日本の社会に嫌気を持っていたのですが、簡単に日本を抜け出す方法も無く、神戸二紀洋画研究所で鴨居玲さんたちと一緒に田村孝之助先生のもとで、好きな絵を描きながら神港新聞へ勤めていたんです。三十才を迎えるのを機に、小さなアトリエを売って、二度と帰ることのないように背水の陣でサンパウロをめざしたんです。森本 奥さんのピカちゃんも一緒に移民ですものね。若林 始めは一人での移住を計画したわけですが、急に先輩、友人達の御世話で、パウリスタ(サンパウロツ子と言う意味)で会費制の結婚式を挙げ、ピカ(光)も一緒について来てくれました。あの頃の移民船はカイコ棚。私は、アメリカ丸の事務長を知っていましたので、一般乗客の部屋に、花嫁移民の一人と入れてくれました。比較的楽でしたが、移民船での生活はドラマチックでしたね。六月の初め神戸港を出て七月二十一日サントス港着、その間の五十五日の船旅の日々が、生国日本から、未知の国の養国ブラジルへ渡る心の準備、徐々にほぞを固める上で大切でしたね。

津高さんは、私よりブラジルには先輩でして、友人の



美術について、ブラジルについて……話がはずむ（津高邸にて）

画家間部さんをご紹介いただいて、ほんとに有難かったです。

津高 僕はサンパウロ・ビエンナーレから招待を受けましてね。渡伯費用はこちらもちですが、一九五九年にブラジルへ「あるぜんちな丸」で行きました。

七月に出て一カ月半。八月の終りについにサントスへ。リオへ寄港し、アルゼンチン・ヴェノスアイレスが終着港。リオへ着くと、絵描きの間部君が迎えに出てくれていてびっくりしました。彼は美術手帖を丹念に読んでいて自己紹介され、それからのつき合いです。

若林 着伯後私も毎日絵を描いていたわけですが、アトリエを処分した金も残り少なくなった頃、その間部さんが仕事探しに出た後のアトリエに、リオの画商テンレイロを連れて現われ、当日壁に掛けていたブラジルでの最初の作品八点を見せてくれ、其の夜会った時最初の画商の言葉「ワカバヤシ、オメデトウ。あの八点は私が買う。

その後の作品も全部もらうから個展に向けて頑張ってくれ」と、そこで値段の交渉に入ったのですが、売れもしない日本での値段を言ったら、それがそのまま通り、その最初の八点で一年食べられました（笑）。それからご紹介いただいた間部さんとの長いつきあひも始まったのです。

★ブラジル気質に合う二人

若林 日本からいろいろるな人がブラジルへ来られました。津高先生が、性格的に最もブラジルに合うのじゃないですか（笑）。例えば自分の最員のサッカーチームが勝ったとしますね。そうすると旗を振り回して、車で道路をねり歩くわけです。そういう精神の解放的な人ではないとブラジルでは暮らせませんよ。外国のホテルに滞在すると、ブラジル人はすぐにわかりますね。とても行儀が悪いですから（笑）。

津高 サッカーのワールドシリーズの時など、街に人気がなくなるんですよ。みんなテレビの前で。そしてブラジルが点を入れると、火花が盛大に上がった。そんな国なんですよ。



津高一さん

若林 そうですね、試合のある日の街は、日本で言えば正月の午前中のようにですよ。そして試合が終わるや車で飛び出して、街中をクラクション鳴らして…。僕達にもそういう気質がうつりますよね。ただやはり絵描きにも北欧の方がびったりくる人もいるし、僕達のようにラテン国の方がびったりとくる者もいますね。

森本 若林さんはブラジルのどんな所が気に入られたのですか。

若林 一言で言えばブラジル人ですね。“人”が好きなんです。それと美術界にしても日本には階級といいますが、序列がありますよね。ブラジルにはそれがありませんよ。へたな画家もいますが、みんな自由に勝手な絵を描いています。日本人は技術的にはうまいのですが、みんな同じような絵ですよ。

津高 抽象画家はなかなか仲間にいれてもらえないですね。

森本 今年でブラジルには何年になります。

若林 もう28年余になりますね。

★背水の陣でブラジルへ

森本 若林さんとは結婚はブラジルでなされたんですか。

若林 姫路市立美術館の副館長の伊藤さんが、まだ神戸新聞にいらした時、神戸新鋭作家シリーズと題して、伊藤さんが推薦した画家の個展をKCCCで行っていました。僕の妻はそのKCCCで働いていました、そこで知り合ったわけなんです。最初妻の両親に「僕は普通の絵描きの様に、欧米ではなくブラジルへ行くわけで、向こう

で絵が描けるかどうかかわからない、背水の陣で勝負しに行きます。最悪の場合、百姓をしなさいといけないかもしれせん。まづごはんの心配をしなければならぬわけ、お宅のお嬢さんを幸わせにするなんて事は、約束できません」と一度は断わったわけです。僕は金もなかったし、女性なんて飲屋のおかみしか知りませんでしたから(笑)。彼女のような若い子をブラジルへ連れていくことに、罪悪感がありました。まあ彼女の方も若かったので恐いもの知らずだったんですよ。幸いに両親の反対はなかったんです。

今だから言える話なんです、彼女の叔父が当時の兵庫県知事の坂本勝さんでして、やはり姪が心配だったんですよ。当時の外務課長が移住斡旋所へやってきて、外務課長というのは、移住を斡旋する立場にいたわけなんです。「ブラジルに画家の可能性は少ない」と言うわけですよ。そんなこともあってようやくブラジルへ渡ったわけなんです、向こうで世話になる人が手配してくれたトラックが、サンパウロの街を通り過ぎて、どんどん奥へ行くんです。やっと着いたのが、サンパウロから30kmほど離れた所にある、工場の寄宿舎なんです。それで「僕はサンパウロでアパートを捜す」と言うのと怒られました、呼び寄せた以上責任がある。食っていきけるかわからないのに、サンパウロへはやれん、という訳なんです。しかも「奥さんは明日から工場で働きなさい。君は一室をあげるから絵を描きなさい」というんです(笑)。それでも六カ月ぐらひはそこにいましたか。それから強引にサンパウロへ行きました。

津高 そういう環境じゃ、なかなか仕事できなかつたでしょうね(笑)。

若林 ブラジルの画壇は層が薄いですし、需要もありませんから、日本から来た画家も居心地が良い反面、楽をして身をくずしやすいですね。死ぬ少し前の鴨居玲さんから手紙が届きました。中に新聞の切り抜きが入ってまして、その見出しが「ブラジルでは絵は家具と同じ」とい



若林和男さん



森本泰好さん

友人のF画伯のインタヴュー記事でした。内容は「壁の多いブラジルでは絵の需要が多く、家具同様必需品である」とあった(笑)。そして手紙には「ブラジルの家具製造組合の諸君によりしく」(笑)と最後に書いてあったんですよ。

僕の息子もね、大学二年生の時に勝手に個展を開いてるんですよ。個展を開くと、絵なんて完売ですよ。こういう事は僕が批判されるのだし、二度としてくれるなど、僕は怒ったんですが、息子にはどうして父親がかんかんになって怒るのか、解らなかつたでしょうね。だからブラジルで画家として生きていくには、よほどしっかり心構えが出来ていないと、すぐ墮落してしまいますよ。全てに亘って、ブラジルと日本をたして二で割れば、ちよ

うどいいと思いますね(笑)。
津高 僕の知り合いの須田剋太も具象を描いたら、ものすごく売れて、しかしその分税金が大変ですけど(笑)。
若林 そうですね。日本では小説家でも画家でも、売れたら売れたで80%ぐらい税金に取られますね。ブラジルで困るのは、画商が売れた分の領収書をくれないんです

よね(笑)。これは絵だけではなく、何か物を買いますね、そうすると聞いてくるわけですよ「領収書いるか?」と。そこでいらぬと言うと、一割ぐらい値引きしてくれるんです。だからブラジル全体がヤミ経済で動いているようなものですから、国が貧しくなる。息子達にいつも言い聞かせています。法を守る大切さを。

津高 それはあなたが、ブラジルというナシヨナリテイを身につけたからですね。現在の日本の父親は、なかなか息子にそういうことは言えませんが。子どもとの会話の時間など、大変少ないですよ。

★日本とブラジル、どちらか

若林 私こちらにうかがうのに、阪神間の高級住宅街を通って来ましたが、サンパウロのそれと比べて豊かとは思えないと思いますね。日本は確かに地価が異常に高いですから、お金に直せば金持ちなんですけど。ブラジルは世界一の債務国なんですけど、中層市民の生活はもっと豊かですよ。

津高 そうですね、日本は金持ち国と言われていますが、どうも実感がないですね。まさかこの土地を売るわけにもいきませんからね。

若林 まだ末の娘が小さい時の話なんですけど、僕の友達のおさんに、ひまをもて余している人がいまして、絵でも習おうかなと。ちやうどその人の家が競馬場の隣りにありまして、当時馬好きだった僕はそれを理由に毎週月曜日は午後絵を教えて、夕方から競馬という生活になったんです。そうすると、毎月曜日に規則正しく家を出て行くものですから、その娘が「ああ、お父さんがやっ」と働き出した。わが家も金持ちになるかもしれない」と言ったんですよ(笑)。ちよっとシヨックでしたね。働いていると思ってくれていなかったわけです。
津高 本来はそうですね。芸術は遊びなんですけどね。それをうまくすりかえて金もうけにしているわけですよ。本当はこっちの楽しみなんです(笑)。

★新神戸オリエンタルホテル

開業1周年記念イベント

■昨年9月29日、新神戸オリエンタルホテルがオープンして早や一年。そこで一周年記念イベントを数多く企画、そのうちのおすすりイベントをご紹介します。

■蜷川幸雄講演会

「蜷川美学〜女性が輝くとき〜」



蜷川ワールドを語る

11月1日

(水)PM11

30から10F大

宴会場「真珠」

にて蜷川幸雄

氏の講演会が

催されます。

蜷川氏といえ

ば今や押しも

押されぬ日本演劇界の演出の第一人者。「リア王」「女王メデア」「NINAGAWAマクベス」「仮名手本忠臣蔵」等、数多くの演劇を独自の視点で演出し、世界中で高い評価を得ています。'88年には、第38回芸術選奨文部大臣賞を受賞し、ますます脂にのった蜷川氏との魅惑的なひとときをどうぞ。

■料金/お1人さま ¥2500 (税・サ込み)

問合せ/「蜷川幸雄講演会」係 TEL 078・291・1121代まで

■PARTY PRESENT パーティの夢、さしあげます



あなたが開いてみたいパーティープランを御応募ください。素敵なプランには、プラン内容に沿ったパーティを当ホテルがプレゼント。

▼応募方法/まずTEL 291-1121へお問い合せください。所定の申し込み用紙およびパンフレットをお送りいたします。

■聖夜は、ハートもドレスアップして。

■新神戸オリエンタルホテルクリスマスディナーショー■



小堀みづ子 12/21木



右 寿 明 12/22金

華麗な歌と踊りの夕べ。ステージはひとときわ輝いて。

お1人さま ¥30,000

(お料理・お飲み物・税金・サービス料共)

心に響く、大人のラブソング。やさしい歌声が愛を語ります。

お1人さま ¥32,000

(お料理・お飲み物・税金・サービス料共)

会場▶大宴会場「真珠」10F

1部▶5:30PM開演 2部▶8:15PM開演

■ご予約・お問合せ ☎078・291・1121

〔クリスマスディナーショー係〕まで

※郵送によるチケット購入も承っております

贈って喜ばれる

花見屋の浮世あられ

伝統の味、良質のもち米と醤油を使って、一枚一枚焼きあげた手焼きのおかきには、独特の歯ごたえと香ばしさがある。
日本茶で過ごすひととき、浮世あられをはじめ、花見屋のオリジナルをお楽しみ下さい。



花見屋

元町店・中央区元町通2-6-6
TEL(078)331-0873 無休

★神戸の集いから

★日独友好に深く貢献

ドイツ連邦共和国総領事は、パウル・オイベル氏大阪ドイツ文化センター所長に同国功労勲章リボン功労十字章授与を決定、8月29日ドイツ総領事館で受賞式が行われた。

同氏は88年、世界的に著名な画家100名に依頼し日本の伝統的風を芸術風に仕上げ、「空の芸術」を日独に紹介、又日本民法にも造詣深く、80年に「日本の法体系」を出版する等、日独文化交流に大きく貢献した。オイベル氏は「大変嬉しいです。巨人の背中にいる小人の気持ちです」とあいさつ。また、指揮者の朝比奈隆氏も出席、同氏の受賞を祝った。



受賞を喜ぶパウエル・オイベル氏(右端)

★日本とプータンの友好の架け橋に



心暖まる歓迎会

9月16日の午後6時より神戸市長公館で「プータンフェスビック選手団の歓迎会」が開催された。

これは神戸プータン友好協会(会長長島隆神戸地下街(株)社長)の主催によるもので、プータンで農業指導に当たっている西岡京治氏夫妻、大西雄一氏(六甲全山縦走市民の会会長)など約70名が集った。

今回のフェスビックには付き添い2名と選手5名が参加したが、中でも陸上競技のケザン・ドージ君は音楽家としても知られ、当日は「行ってしまわないで」を熱唱し万雷の拍手を浴びた。

★神戸に現代美術の

震源地を

意欲ある作品の発表の場として出発し、6年目を迎えた「ギャラリーほりかわ」のオーナー、堀川昭年さんが現代美術・造形等の作品の発表の場を、新たに9月7日、「三宮画廊」(中央区三宮町)をオープンした。

同日、6時より行われたオープニングパーティーには、オープニング記念展を行った初田 寿さんをはじめ、元神戸新聞美術欄担当で自らも絵を描く草野拓郎さんら作家や、美術関係者約30名が集い、佐藤 廉さん(元町画廊オーナー)が乾杯の音頭をとり、神戸の芸術活動の進展を祈った。



画廊完成を祝って

★K O B E発の

演劇祭を目指して:



各劇団のプロデューサーの面々

地元発信を願い、8月29日(火)から新神戸オリエンタル劇場で、演劇祭「新神戸ニュー・ウェイブ・シアター」が開催され、5つの劇団がそれぞれの熱き舞台を演じた。

千秋楽の9月13日(水)、5番目の「劇団シリウス・プロダクション」の「フル・フオー・ラブ」の公演終了後、華やかな打ち上げパーティーが行なわれた。劇場内のバーコーナーで開かれたパーティーには劇団やマスコミの関係者約70名が集まり、本フェスティバルの成功を祝った。舞台の興奮が残っている為か、演劇論も飛びだし、熱気は高まった。

K.F.S. NEWS 151

● 8月のマンスリーサロン

真夏の100万ドルの夜景に乾杯!

レポート/KFS理事 石原 暁美



8月のKFSは恒例夏の野外マンスリー。8月18日(金)残暑の下界を後に暮れなずむ六甲山ホテルへ7時集合。

100万ドルの夜景をのぞむ ジンギスカンテラスで、まずは生ビールで乾杯。海の幸、山の幸をジンギスカン料理でたのしみつつ、話は会員それぞれのお盆休みに。夫婦二人きりでゴルフ旅行をたのしんだ人、富士登山をした人、家族旅行をした人、帰省した人、都心のホテルのプールで過した人、どこにも出かけずのんびりと家で過した人等々、話がはずみ、食がすすみ、ビールもすすみ。

さわやかな夜風と六甲山の夏にはむしろ珍しい澄みきった眼下の夜景、山の端からのぼってきた十六夜のお月

様まで参加して夏の夜の宴はたのしく、でもあっという間に終わった。まっすぐにネオンの街におりる人達と六甲山なお去りがたく夜風にさそわれてケーブル山上駅までそぞろ歩きの組にわかれて解散。参加人数11名はいささか淋しかったけれど東の間、夏の夜の六甲山をたのしんだ私達でありました。



▲和気あいあいと舌鼓

●10月のマンスリーサロン

テーマ/「環境音楽」についての正しい知識と認識

講師 廣田 均(株式会社ジーベック 代表取締役)

とき 10月20日(金) PM6:30~8:30

ところ ジーベックホール(ポートアイランド)

会費 1,000円

<講演内容>

多目的ホールとして、注目を浴びているジーベックホールの見学会と「環境音楽」についての公開講座。

●15周年記念イベント



桂 文珍さん

15周年を迎えての特別ビックイベントは、西山勤氏(桂文珍)の基調講演と、各界の著名人によるパネルディスカッションを中心に、異業種交流を目的としたパーティーを開催しますのでぜひご参加を。/11月25日(土)15:30~(神商ホール・ホテルゴーフリッツ)・問い合わせ先 ☎251・0496

★出合いの旅 エンジンバラにて



嘉納洋二



ホテル・グリストル（バリ）でのご子息の結婚式。嘉納ファミリーが久々に揃った。

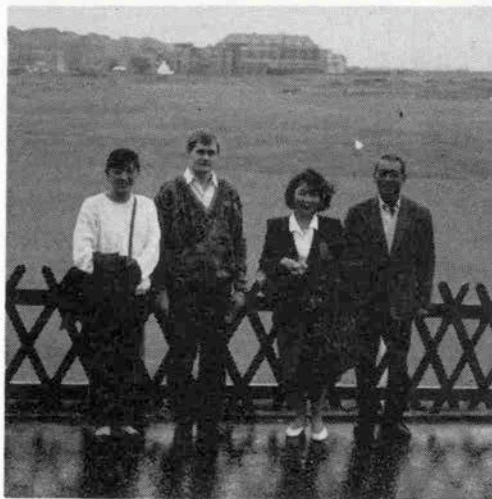
「『オイスター・バー』へ行こうよ。」
と娘のものがいった。

娘は大学生の頃「炎のランナー」という映画を見て感激して帰ってきた。感激のあまり、その映画のディスクを買ってきて家族中に見せた。英国の大学生が百メートル競走をやるお話である。背広の上衣をとりネクタイとカラーをはずしただけの姿で、十一秒かそこらで走るというのだからすごい。

全編アマチュアイズムに貫かれたよき古き英国スポーツ界だが、その主人公が面白い。

あまりパツとしない男だが、ひどくいばって、あるときスコットランドの首都で美人を口説く場面がある。さるレストランに誘って格好をつけるが、サマにならない。ところが相手の美人（オペラ歌手）のほうは、はじめからその気になっっているから愉快だ。

そのレストランが、エンジンバラの「オイスター・バー」なのである。カキ・バーかと思っではない。これはエンジンバラでも由緒のある、紳士淑女だけが集まるクラブ「カフェ・ロワイヤル」



セント・アンドリュースにてもちゃん夫妻と嘉納ご夫妻



スコッチ・ウイスキー・グレンタレットの蒸留所にて。

の一隅にある古いレストランである。

家内の邦子と私、娘のもとその且邦である金髪のマイケル(カナダ人)とでテーブルに坐ると、白衣をきりりと着たかしこそうなお姐さんが注文をとりに来た。日本でのように金ピカのメニューではない。

「生のカキをたべるぞ。」

「パパ、やめときなさい、夏のカキ。」

と邦子がいった。なに、ここへくる前にパリで旧友に招待されて、ブローニュの森のレストランで生のカキを食ったのだ。(あれはたしか七月の六日だった。) いやならやめろ、しかしオレとお前とは古いつきあいだ、一緒にカキを食って死んだからといって、今更どうということもあるまい、とその旧友がいった。生のカキをポルドーの赤で流しこんだが、すてきにうまかった。勿論そのあと腹をこわすこともなかった。

さて、この「オイスター・バー」のカキがテーブルにやってきた。北海のカキが分厚いシェルの上のっかっている。これは間違いなくうまいにきまっている。

テーブルには、このほか鮭のポイルや大きなステーキなどが並んだ。こういうのを見ると、ひとりに頬がゆるんでくるものである。

ふと眼をあげると古くて高い天井の下、わりあい手狭な屋内である。きれいに磨いた窓ガラス越しに外の風景がみえる。夕方の八時すぎというのに真青な空、透明な陽光、濃緑の栃の木トチの葉が微風ゆれている。

ひさしぶりの家族旅行というものは、何の疑いもなく平和だった。



右より上段・丹波さん、杉山さん、北浪さん、幸田さん下段・中野氏、風早氏、吉田氏

湯けむり対談



湯の街

有馬歳時記

有馬は
浴衣美人の似合う街

有馬ゆかたレディー勢揃い

今日は、有馬ゆかたレディーの丹波増澄さん・北浪良佳さん・幸田愛さん・杉山泰子さんと、有馬青年会リーダー・中野俊男さん、同会宣伝部長風早和喜さん、吉田隆司さんに有馬の魅力をお話していただきました。

自己紹介と有馬の魅力を一言ずつお願いします。

幸田 芦屋女子短大の一年生です。有馬は大変有名な温泉街ですし、自然も豊か。大阪・神戸からも近いし、手頃な温泉街だと思います。

北浪 大阪音大短大音楽科の一年生です。子供の頃、祖母によく連れてきてもらいました。落ち着けるし、疲労回復には最適のところでと思います。

丹波 同和火災海上保険に勤務しています。有名な温泉なので、東京の知人も必ず来たがります。明日も、東ドイツから来ている友人に案内してほしいと言われているんですよ(笑)。

杉山 ホテルニューオータニに勤務しています。車ですぐ来れて、一味違った雰囲気を楽しめるのがいいですね。

中野 皆さんには、これから1年間有馬のPRを頑張ってもらおうわけですが、温泉ブームの今、若い人の代表として爽やかなイメージを伝えてほしい

結婚式場を完備しています



伝統と格式を誇る

向陽閣

景勝高台の近代旅館

TEL (078) 904-0501代

欽山は典雅な
日本風の館です

国際観光旅館



TEL (078) 904-0701代

敷地内から湧きでる
日本最古の温泉“有馬温泉”

阪急ホテルチェーン

有馬ビューホテル

TEL (078) 904-2295代

温泉と演芸と遊技場
有馬ヘルスセンター

TEL (078) 904-2291

雅ただようくつろぎの館

中の坊瑞苑

TEL (078) 904-0781

会議セミナーから御家族づれまで

有馬グランドホテル

TEL (078) 904-0181



4人のチームワークはばっちり。有馬瑞宝寺公園にて

ですね。

— それでは地元の方に有馬の魅力をお教えいただきたいのですが…。

吉田 温泉はもちろんのこと、名所もたくさんあるんですよ。瑞宝寺公園、鼓ヶ滝公園、景色のいい所として愛宕山もおすすすめします。

中野 最近できたコースなんです、インターロッキング沿いの一時間で有馬の名所を回る、れんが作りの散歩道をお勧めします。新しい名所ですよ。

風早 瑞宝寺公園では11月2、3日に恒例の大茶会が開かれます。皆さん御存知ですか。

中野 温泉以外の有馬の良さもPRしてほしいですね。何げない路地裏にも風情が漂っていいですよ。

— 最後に今後の抱負を。

杉山 同年代の人に来てもらえるように、料理の美味しさも強調したいですね。

丹波 有馬の古い情緒の良さと、新しい良さの両方をPRしたいです。

北浪 夏休みは、たいいていの人々が海へ行くけれど、プールのついでに快道なホテルで、温泉とリゾートを両方楽しむ、そんな有馬の過ごし方を提案したいです。

幸田 有馬の親しみ易さをPRしたいですね。

風早 彼女達には来年の6・7月のハロー神戸キャンペーンで東京・名古屋・横浜で有馬のPRをしてもらいます。頑張ってもらいたいと思います。

— 今日は、ありがとうございます。た。

有馬の歴史を語り続ける「いで湯の宿」

銀水荘

別館 楽山

TEL (078) 904-0622

別館 光楽

TEL (078) 904-3656

静寂さにつまれた
くつろぎの宿

国際観光旅館

陵楓閣

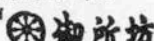
TEL (078) 904-0675
TELEX 5627-115

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり
味に集う



TEL (078) 903-1024

木造りの宿



TEL (078) 904-0551

自然の恵みを
湯けむりに伝える

政府登録国際観光旅館

古泉閣

TEL (078) 904-0731